

横尾忠則全ポスター

収録点数約900点！ 横尾忠則の全ポスター集成、 ついに刊行なる!!

1953年、高校2年時の作品から最新作まで、世界のグラフィック・シーン、そしてまた世界のアート・シーンに新たな領野を切り拓いた、横尾忠則、半世紀を超える、前人未踏の足跡！全ポスター約900点を収録。

A4判変型・上製ジャケット装・460ページ
(カラー404ページ+付録56ページ)

2010年7月13日刊行

定価：本体12,000円+税
ISBN 978-4-336-05228-5

序文＝クリストファー・マウント（前ニューヨーク近代美術館キュレーター）
建畠 哲（国立国際美術館館長）

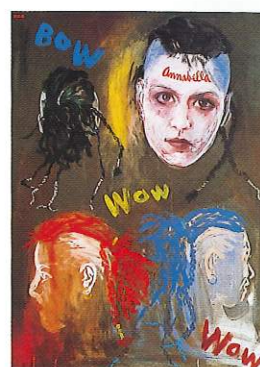
【本書の特色】

- * 高校2年時の作品から最新作まで、横尾忠則がこれまでに制作したすべてのポスターをオールカラーで収録した。
- * 時代の記憶と熱気を伝えるため、主に編年順で構成した。
- * 国内外の様々なクライアント、著名俳優、歌手、作家などが続々と登場する驚異のヴァリエーションを堪能できる。
- * あわせてアイディアスケッチや版下、原画、色指定紙なども収録。横尾忠則のポスター制作の過程の一端に触れることができる。
- * 本年7月より国立国際美術館で開催される『横尾忠則全ポスター』の公式カタログとして編集された。
- * ポスター全900点の詳細データ付き。資料的価値も備えた。

横尾忠則（よこおただのり）… 1936（昭和11）年、兵庫県西脇市生まれ。美術家。1960年代よりグラフィックデザイナーとして活躍。1968年、「劇団状況劇場」のためのポスター《腰巻お仙》がニューヨーク近代美術館にて「1960年代の主要作品」に選ばれ、72年には同館にて個展、73年ハンプルク工芸美術館、74年アムステルダム市立美術館などでも個展。81年「画家宣言」後は、《瀧》シリーズ、《冒険絵画》シリーズ、《赤》シリーズ、《Y字路》シリーズ、《温泉シリーズ》などを次々に展開。パリ、ヴェネツィア、サンパウロ、バンガラデッシュなど各ビエンナーレに招待出品。近年は2008年に世田谷美術館、兵庫県立美術館、09年に金沢21世紀美術館などで大個展。06年、パリのカルティエ現代美術財団での個展は国際的に高い評価を得るなど、国際的な活動を続けている。



西高祭 (1953年)



BOW WOW WOW (1982年)



MoMA2000 (2000年)



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

<http://www.kokusho.co.jp>
sales@kokusho.co.jp

注文書
(書店印)

横尾忠則全ポスター

ISBN 978-4-336-05228-5

定価：本体 12,000 円 + 税

注文数

冊

国書刊行会

名前

電話番号

住所 〒

横 尾 忠 則

THE COMPLETE POSTERS OF
YADANORI YOKOO



国書刊行会

全 ポ ス タ ー

誰ものの記憶に焼きつけられた、 独創的な創造世界！

確実にいえることは、横尾が戦後の日本において最も長い間生き延びた、おそらく最も偉大な前衛芸術家であるということだ。横尾と同じく、1960年代、70年代に名を馳せた芸術家の中で、いまだに先見的な、意義ある活動や作品を生み出す者はほとんどいない。(中略)だが、横尾は常に実験的な試みを行っている。その作品はオーソドックスなものへの挑戦であり、境界を押し広げるものであり、さらには、日本が自国の外側から世界を見ることを促すものであり続けている。(クリストファー・マウント、本書「日本の最も偉大な前衛芸術家——横尾忠則」より)

*

彼のポスターが一般的なデザインの規範とは異質のものであるとして、ではそれはどのような領域に位置付けられるべきなのか。イラストレーションなのか、あるいは絵画なのか。横尾がイラストレーターとしての卓越した資質を有していることは事実だが、ポスターの仕事はタイポグラフィのユニークさや、時にはイメージのアーカイヴともいえるべき様相を示すコラージュの方法において、イラストそのものと同じ視するわけにはいくまい。またポスターと絵画性とは密接に関連しているにしても、複数性という前提や印刷というメディアにおいてのみ可能な表現が探求されているという点では画家のメチエに留まっているわけでもない。

やはり彼のポスターは類例がないもの、横尾ワールドとしてしか規定しえないものなのだ。写楽の役者絵やウォーホルのシルクスクリーン作品がそうであるように、グラフィック・アートの世界に個人名だけで屹立している不思議といえはかにも不思議な領域なのである。(建畠哲、本書「異教の王」より)

*

横尾のポスターが、われわれに忘れがたい印象と想像する喜びを与えてくれるものであることに異論の余地はないだろう。ポスターの楽しさというものが、いろいろな要素によって成り立つものであることを、彼の多彩な仕事は教えてくれる。例えば戦後の歌謡史や演劇史の流れを辿ることができるのも、横尾のポスターならではの楽しさである。

もちろん、そのような見方は、批評的態度としてはあまりにも卑俗的だという声もあることだろう。しかし、そうした日常生活の中に浸透していくのがポスターという存在であり、横尾のポスターは、その大衆性をデザインの中に実現できた希有なケースであるといえることができる。果たして、そのようなものとしてポスターを作ることができた者、作ることが許された者がどれほどいただろうか。要するに、横尾忠則のポスターであるということがそれを保証し、またそのこと自体がポスターとしての価値となり、広告としての宣伝効果となるのである。(安来正博、本書「フェティッシュとしての横尾ポスター」より)



a



b



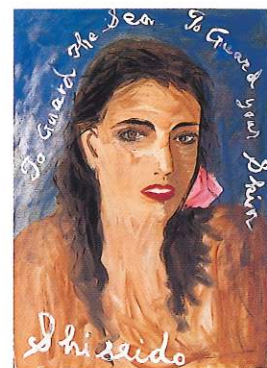
c



d



e



f



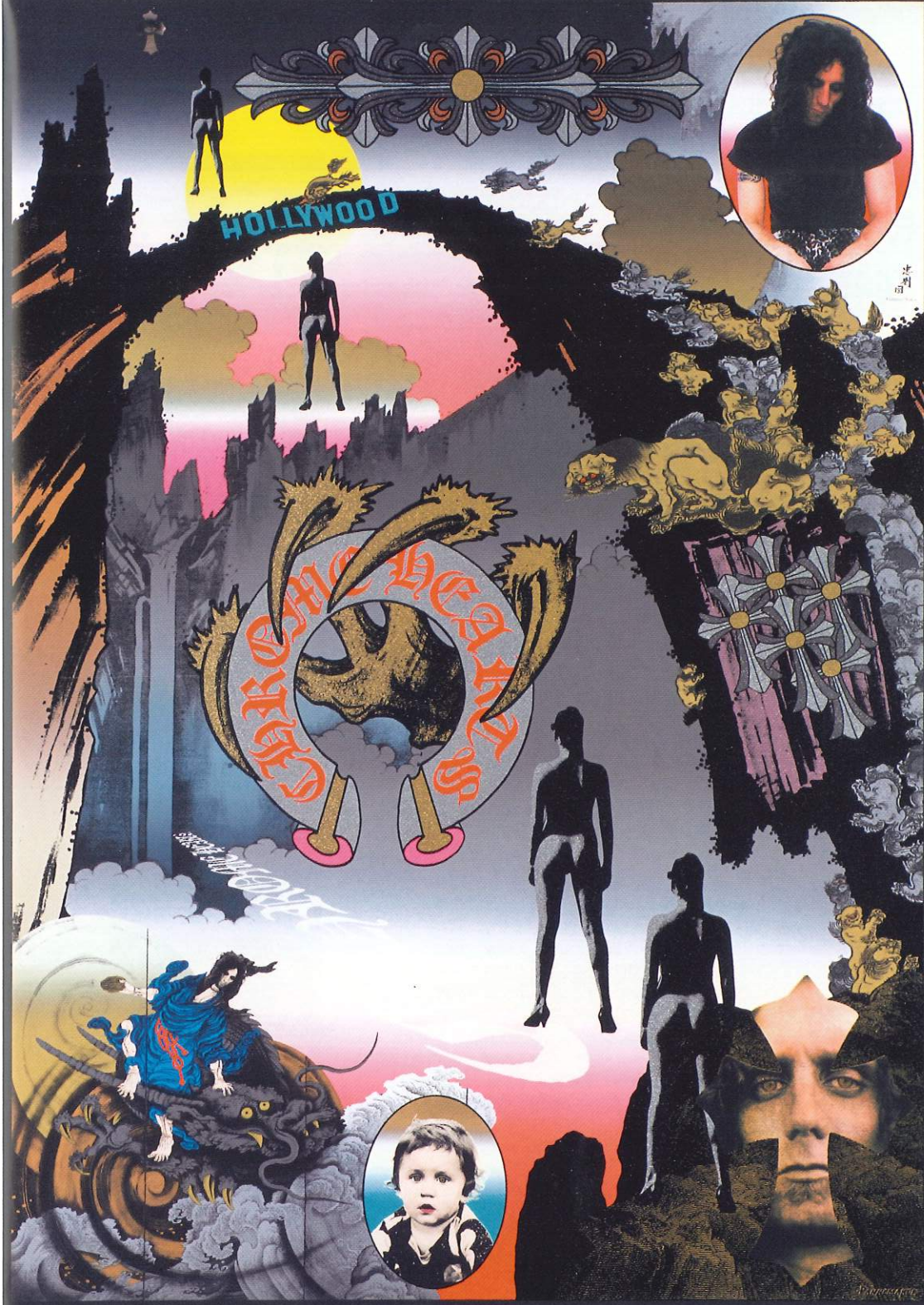
g



h

a. 腰巻お仙 (1966年) / b. 戦後文化の軌跡 1945-1995 (1995年)
c. ベルサイユのばら 2001 (2001年) / d. A LA MAISON DE M. CIVECAWA (1965年)
e. こうもり (1963年) / f. Shiseido (1982年)
g. 能、蘭の會 (1969年) / h. TADANORI YOKOO (1974年)

(組見本 実物の約 55%)



上段：左 少年ブルーラス（1999年）／右 TADANORI YOKOO（1965年）
下段：左 切断された小指に捧げるバラード（1966年）／右 CHROME HEARTS（1997年）

国書刊行会

定価：本体12,000円＋税
A4判変型・上製ジャケット装・460ページ（カラー404ページ＋付録56ページ）
ISBN978-4-336-05228-5